

教科(科目)	地歴(世界史探究)	単位数	3単位	学年	5学年
使用教科書	山川出版社『詳説世界史』				
副教材等	山川出版社『世界史探究詳説世界史ノート』 第一学習社『グローバルワイド最新世界史図表』 山川出版社『新 よくでる一問一答 世界史』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①幅広い教養を身につけ、他者と協働しながら、粘り強く挑戦し続け、地域社会や国際社会に貢献する意欲や資質・能力を備えた人材を育成します。</p> <p>②主体的、自律的な人間として、行動力にあふれ、自他を大切にする思いやりの心とリーダーシップを兼ね備えた人材を育成します。</p> <p>③主体的に学ぶ力を身に付け、社会における課題等に気づき、創意工夫、試行錯誤を重ね、その解決のために行動できる人材を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、発達段階に応じて1・2年を「基礎の充実」、3・4年を「発展・挑戦」、5・6年を「自律・深化」に分け、学習内容の確かな定着、主体的で対話的な学習態度の育成を図りながら次の教育活動を展開します～</p> <p>①総合的な応用力、学問への探究心を育むとともに、知識や技能を活用するための思考力、判断力、表現力を育成する課題解決型の授業を実施します。</p> <p>②他者とコミュニケーションを取りながら、地域社会や我が国の魅力を国内外に発信できる知識・技能等を高めるための学習活動を実施します。</p> <p>③身に付けた力を社会で発揮するため、地域貢献活動、社会体験活動への参加を推進します。</p> <p>④自己肯定感を高め、他者を思いやり、多様性を理解する態度等を育成するため、系統的な特別活動や学年を超えた多様な体験活動を実施します。</p>

2 学習目標

<p>社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
--

3 指導の重点

<p>基礎事項の定着を目指すとともに、科目への興味・関心を高めることを通じて、現代の諸課題の根底にある歴史的背景を理解すると同時に、それを踏まえたうえで現代の諸課題の解決に向けて自主的・自立的にアプローチできる能力を育む。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
---	---	--

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	世界の諸地域について基本的な事柄を関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。また、関連する諸史料を収集し、読解や分析をしている。	地域をこえた政治や文化の影響を幅広い視点から考察し、様々な要素を踏まえて主体的に判断して、自分の考えを適切に表現している。	世界各地の歴史的な背景について関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、現代社会の諸問題について主体的に取り組むことの重要性を理解している。
評価方法	以上の観点を踏まえ、定期考査、小テスト、レポートやワークシートなどから、評価します。	以上の観点を踏まえ、定期考査、小テスト、レポートやワークシートなどから、評価します。	以上の観点を踏まえ、授業中の発言、発表や討論への取組の観察レポートや提出物などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	授業 時数	評価 方法
4	第1章文明の成立と古代文明の特質 1 文明の誕生 2 古代オリエント文明とその周辺 3 南アジアの古代文明 4 中国の古代文明 5 南北アメリカ文明 第2章中央ユーラシアと東アジア世界 1 中央ユーラシア——草原とオアシスの世界 2 秦・漢帝国 3 中国の動乱と変容 4 東アジア文化圏の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・おもな古代文明の立地について考察し、文明が生まれるために必要だった条件を理解する。 ・エジプト王国が長期にわたり安定した支配を続けられた理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ・アッシリアがオリエントをはじめて統一できた背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ・騎馬遊牧民が強大な国家を築くことができた理由を多面的・多角的に考察し表現している。 ・唐の制度や文化が近隣諸国に与えた影響について理解する。 ・ソグド人の中央ユーラシアや東アジアにおける役割について理解する。 	10	ワーク シートの 確認

5	<p>第3章南アジア世界と東南アジア世界の展開</p> <p>1 仏教の成立と南アジアの統一国家</p> <p>2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着</p> <p>3 東南アジア世界の形成と展開</p> <p>第4章西アジアと地中海周辺の世界形成</p> <p>1 イラン諸国家の興亡とイラン文明</p> <p>2 ギリシア人の都市国家</p> <p>3 ローマと地中海支配</p> <p>4 キリスト教の成立と発展</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教やジャイナ教などの新たな宗教に共通する点について理解する。 ・「海の道」の交易における南インドの役割を多面的・多角的に考察し表現する。 ・ヒンドゥー教が南アジアの社会に根づいていった背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ・アケメネス朝が広大な領域に中央集権的支配を築ことができた背景や要因を理解している。 ・ローマ帝国が危機を迎えた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ・ローマ帝国によるキリスト教への対応を多面的・多角的に考察し表現する。 	10	<p>ワークシート の確認</p> <p>中間 考査</p>
6	<p>第5章イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成</p> <p>1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立</p> <p>2 ヨーロッパ世界の形成</p> <p>第6章イスラーム教の伝播と西アジアの動向</p> <p>1 イスラーム教の諸地域への伝播</p> <p>2 西アジアの動向</p> <p>第7章ヨーロッパ世界の変容と展開</p> <p>1 西ヨーロッパの封建社会とその展開</p> <p>2 東ヨーロッパ世界の展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ウマイヤ朝の領域的な広がりとその支配の特徴を理解する。 ・アッバース朝成立の背景とその統治の特徴を理解する。 ・イスラーム化が中央アジアにもたらした変化について理解している。 ・十字軍やモンゴルの進出が西アジアにもたらした影響について考察し表現している。 ・西ヨーロッパに特有の封建社会の仕組みについて理解する。 ・十字軍の遠征の経緯を理解し、それが社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・西ヨーロッパで商業が盛んになった理由を多面的・多角的に考察し表現する。 	10	<p>ワークシート の確認</p>
7	<p>第7章ヨーロッパ世界の変容と展開</p> <p>3 西ヨーロッパ世界の変容</p> <p>4 西ヨーロッパの中世文化</p> <p>第8章東アジア世界の展開とモンゴル帝国</p> <p>1 アジア諸地域の自立化と宋</p> <p>2 モンゴルの大帝国</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・封建社会が解体に向かった背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ・教皇権の衰退と王権の伸張の関係について理解する。 ・宋における社会や経済の発展の様子や文化の特徴を理解する。 ・ティムール朝がモンゴル帝国から受け継いだものを多面的・多角的に考察し表現する。 	10	<p>ワークシート の確認</p>
9	<p>第10章アジアの諸帝国の繁栄</p> <p>1 オスマン帝国とサファヴィー朝</p> <p>2 ムガル帝国の興隆</p> <p>3 清代の中国と隣接諸地域</p> <p>第11章近世ヨーロッパ世界の動向</p> <p>1 ルネサンス</p> <p>2 宗教改革</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オスマン帝国の統治が当時の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・清朝の領土に組み込まれた民族と、彼らがどのように統治されていたかを理解する。 ・漢人の社会や文化に対して清朝がどのような態度をとったのかを理解する。 ・多方面におよぶルネサンスの成果が後世に与えた影響を理解する。 ・カルヴァンの教えの特徴やイギリス国教会の成立の意義を理解する。 	10	<p>ワークシート の確認</p> <p>期末 考査</p>

10	<p>第11章 近世ヨーロッパ世界の動向</p> <p>3 主権国家体制の成立</p> <p>4 オランダ・イギリス・フランスの台頭</p> <p>5 北欧・東欧の動向</p> <p>6 科学革命と啓蒙思想</p> <p>第12章 産業革命と環大西洋革命</p> <p>1 産業革命</p> <p>2 アメリカ合衆国の独立と発展</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主権国家体制の成立の経緯を多面的・多角的に考察し表現する。 ・17世紀における2つのイギリスの革命について、国際的な状況もふまえて理解する。 ・プロイセンとオーストリアの関係の推移を多面的・多角的に考察し表現する。 ・海外貿易が近世ヨーロッパ経済の動向に与えた影響を理解する。 ・イギリス産業革命が世界経済や社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 	10	ワークシートの確認
11	<p>第12章 産業革命と環大西洋革命</p> <p>3 フランス革命とナポレオンの支配</p> <p>4 中南米諸国の独立</p> <p>第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成</p> <p>1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動</p> <p>2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成</p> <p>3 アメリカ合衆国の発展</p> <p>4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・革命中のフランス国家体制の変遷や革命が外国に与えた影響を理解する。 ・ナポレオンの支配に対する人々の反応を多面的・多角的に考察し表現する。 ・中南米諸国の独立運動に共通する点を理解する。 ・ウィーン体制を動揺させた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ・1848年革命の展開と影響について、ヨーロッパ内の地域差に着目して多面的・多角的に考察し表現する。 ・ドイツとイタリアの国民国家成立を比較し、共通点と相違点を理解する。 ・ドイツ帝国におけるビスマルクの諸政策の動機を多面的・多角的に考察し表現している。 ・南北戦争で北部が勝利した要因を理解する。 	10	ワークシートの確認 中間 考査
12	<p>第14章 アジア諸地域の動揺</p> <p>1 西アジア地域の変容</p> <p>2 南アジア・東南アジアの植民地化</p> <p>3 東アジアの激動</p> <p>第15章 帝国主義とアジアの民族運動</p> <p>1 第2次産業革命と帝国主義</p> <p>2 列強の世界分割と列強体制の二分化</p> <p>3 アジア諸国の変革と民族運動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オスマン帝国の改革の成果と課題を理解する。 ・ロシアとイギリスの競合関係が西アジアに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・東南アジアの植民地化の経緯を理解する。 ・清朝の危機の要因を多角的に考察し表現する。 ・各列強が抱えていた国内事情と課題を理解する。 ・列強による太平洋地域の植民地化の経緯を理解する。 ・20世紀初頭における列強体制の枠組みの変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ・改革をおこなったにもかかわらず清朝が倒れた原因を理解する。 	10	ワークシートの確認

1	<p>第16章第一次世界大戦と世界の変容</p> <p>1 第一次世界大戦とロシア革命</p> <p>2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国</p> <p>3 アジア・アフリカ地域の民族運動</p> <p>第17章第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成</p> <p>1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦がもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・ロシア革命の経緯を理解し、その歴史的意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ・第一次世界大戦後の新たな国際秩序が形成された経緯を理解する。 ・イタリアにおけるファシズム体制成立の背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ・世界恐慌が起こった背景やその影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・日本と中国が全面戦争へいたった背景を多面的・多角的に考察し表現する。 	10	ワークシートの確認
2	<p>第17章第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成</p> <p>2 第二次世界大戦</p> <p>3 新しい国際秩序の形成</p> <p>第18章冷戦と第三世界の台頭</p> <p>1 冷戦の展開</p> <p>2 第三世界の台頭とキューバ危機</p> <p>3 冷戦体制の動揺</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開戦直前における各国のナチス＝ドイツへの対応を多面的・多角的に考察し表現する。 ・ヨーロッパでの第二次世界大戦の展開を理解する。 ・第二次世界大戦の終戦までの経緯を理解する。 ・朝鮮戦争が東アジアの国際情勢に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・現代の中東問題の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ・米ソ代理戦争としてのベトナム戦争の性格を理解する。 	10	ワークシートの確認 期末 考查
3	<p>第19章冷戦の終結と今日の世界</p> <p>1 産業構造の変容</p> <p>2 冷戦の終結</p> <p>3 今日の世界</p> <p>4 現代文明の諸相</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オイル＝ショックが各国の社会と経済に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・ソ連で始まった改革と東欧革命との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ・冷戦終結後も続く地域・民族紛争の背景や経緯を理解する。 	10	ワークシートの確認

計110時間(48分授業)

7 課題・提出物等

世界史探究詳説世界史ノート、週末課題、レポート

8 担当者からの一言

現代世界の様々な地域で起きている諸問題を理解するには、その歴史的背景を理解しなければなりません。また、そうした知識は、国際化が進む現代で日本が他国と協調していくうえでもなくてはならないものです。国際社会に生きる一員として主体的に学習してください。